

## 2019年度 3年生文系選択(子どもの発達と保育) シラバス

<b>概要</b>	<b>科目名</b>	<b>子どもの発達と保育</b>	<b>学年</b>	<b>3</b>	<b>履修単位</b>	<b>2</b>
	<b>目 標</b>	・子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。 ・子どもの発達の特性や発達過程については、乳幼児が人間の発達の基礎を培う時期であることから、この時期の重要性を理解させるとともに、発達と環境の関係及び乳幼児期の発達の特性や過程、個人差のあることを理解させる。 ・実習などを通して、子どもの発達の特性や発達過程、保育に関する知識と技術を習得させる。				

学期	項目	指導事項	時間	指導上の工夫・留意点
<b>1 学期</b>	子どもの発達と保育を学ぶにあたって		2	これからの保育の学習をはじめにあたり、保育を学ぶ意味について理解させる。
	子どもの発達の特性	生涯発達における乳幼児の重要性	4	ライフステージにおける乳幼児期の位置づけを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解させる。また、「人との「かかわり」の大切さを理解させる。
		発達と環境	4	子どもは、さまざまな環境の影響を受けながら発達していくことを理解させる。
		発達観・児童観とは	6	子どもが保護・養育される権利をもち、尊重されるべき存在であると認識されるまでの歴史を知らせる。日本の児童観の変遷と社会環境や法制度のしくみについて理解させる。
	子どもの発達過程	身体の発達と運動機能の発達	4	身体発達と運動機能の発達には一定の順序と方向性があることを理解させる。一方で、個人差が大きいことも理解させる。
		乳幼児期のからだの発育	8	乳幼児期の発達について、各部位別の目安や評価法を理解させる。また、乳幼児期の生体的特徴についても理解させる。
		乳幼児期の発達の特徴	10	乳幼児期の発達と環境の関係を理解させる。人は生まれながらにしてさまざまな感覚機能を持っている「社会的な存在」であることを認識させる。
		人間関係の発達	8	愛着関係の形成過程を学び、その重要性を理解させる。安全基地として親の重要性について理解させる。また、家族・兄弟・友達などの対人関係と社会性の発達について考えさせる。
		心の発達	4	子どもと大人ではものの考え方に違いがあることを知らせる。言葉の発達の順序について理解させる。
	<b>2 学期</b>	子どもの生活	視覚教材使用	4
子どもの健康と生活			2	養護の必要性・目的を理解し、発達の段階に応じた適切な養護の方法を知る。基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを理解する。
沐浴実習			1	沐浴人形を使い、沐浴の仕方を理解させる。
子どもの食事			2	子どもの栄養と食生活の特徴を知り、必要なエネルギーと栄養素について理解させる。
幼児食実習			2	幼児食実習や幼児用のおやつ作りなど、実習を通して子どもをイメージさせる。
子どもの衣服			2	乳幼児に適した被服材料・型を知り、適切な被服計画ができるようにさせる。また、適切な寝具やおむつの使い方を理解させる。
子どもの遊びと生活			2	子どもにとって「遊び」は、豊かな心や多くの能力を獲得するために大切なことであることを知らせる。子どもの情操・感性・知的好奇心などを豊かにするために適切な児童文化財を選択できるようにさせる。
<b>3 学期</b>	子どもの保育	保育実習	10	保育実習の注意事項を確認させ、絵本作りに挑戦させる。
		子どもの健康管理	10	子どもの健康を守るための保護者の役割を理解させ、健康状態の観察方法を知る。子どもの病気の特徴や住まいに潜む危険について理解させる。
		保育の意義と目標	4	人間形成の基礎を培う乳幼児期の大切さと保育の意義について考えさせる。保育が一方方向な行為ではないことを理解させ、子どもと保育者の相互成長の視点に気づかせる。
		保育の方法	6	子どもの成長には、子どもを受け止め理解してくれる大人の存在が不可欠であることを理解させる。発達過程の特徴と、段階に応じた保育の方法を理解させる。
	子どもの福祉と子育て支援	保育実習	8	保育の方法を確認しながら子どもと一緒に遊び、反応を確認させる。また、自分自身の成長も確認させる。
		保育の環境	8	子どもが育つ現在の環境にはどのような問題点があるのか知らせる。また、家庭での保育と集団保育のそれぞれの意義を学び、課題について考えさせる。
子どもの福祉と子育て支援	子どもの福祉	4	子どもの福祉の理念について理解し、歴史的な経緯を知らせる。児童福祉法や児童福祉関連施設の概要について理解する。	
	子育て支援	4	男女共同参画社会における、これからの福祉について考えさせる。母親の育児負担を減らすために何ができるか、周囲の人間と社会の両面から考えさせる。	
評価方法	①授業態度 ②定期考査 ③提出物 ④課題 以上を総合的に判断し、評価とする。			
評価 規準	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	◎授業中のプリントの記入や取り組み姿勢・態度から、保育について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組んでいる。 ◎実践的な態度を身につけている。	◎授業中のプリントの記入内容や態度、定期考査の結果から、保育について課題を見つけ、適切に判断し、解決方法を考え取り組んでいるか。	◎保育実習等を通して、基礎的・基本的な技術を身につけているか。	◎定期考査の結果を参考にし、子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する基本的な知識と技術を習得することができたか。